横浜市立田奈小学校　平成２９年　７月　３日

# 学 校 だ よ り　７月号

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/tana

校長　二瓶　光代
TEL　045-981-0009

## 小さな命が教えてくれること

### ～　ヤゴ、カイコ、そしてさなぎ　～

校　長　二瓶　光代

朝、教室の中からカサカサ、カサカサと小さな音が聞こえます。２年生が飼っているプールにいたヤゴが、夜の間にトンボになり、もっと広いところで飛びたいと羽を震わせている音です。羽化に至らず死んでしまったヤゴもいることから、羽化して飛び回ることは当たり前でなく、いろいろな問題を乗り越えた結果の出来事だと思うとトンボが飛んでいる姿は今まで以上に感慨深く見えてきます。羽化の途中で羽が伸びきれなかったトンボが、一生懸命羽を動かしている姿を、応援する気持ちで見守ります。

パリパリ、パリパリ、３年生が育てているカイコが黙々と桑の葉を食べている音です。ほぼ同時に誕生したカイコですが、不思議なことに、飼育ケースによって大きさがずいぶん違います。まめに掃除してもらったり、新鮮な葉を次々に与えてもらったりしているカイコはどんどん大きくなっているとのことです。適切な支援が成長を促しているのでしょう。

私が密かに「さなぎマンション」と呼んでいる飼育ケースが、２年生の廊下にあります。カブトムシの幼虫は土の中に部屋（蛹室ようしつ）を作り、その中でさなぎになります。ケースの中にはさなぎが入っている部屋が並んでいるのです。驚いたことに、その部屋は、同じような間隔で、列になって作られています。部屋の中のさなぎは安心しきって成虫になる準備をしている
ように見えます。部屋の並びが整然としているのは偶然なのか、さなぎを持って来てくださった地域の方に聞いてみると「さなぎは、部屋に近づいてくる幼虫がいると振動を起こし、幼虫が近づきすぎて部屋を壊すことを防いでいるらしいのです。部屋は、とてももろいのです。」という答えが返ってきました。だから近すぎる部屋はなく、間隔があいているのでしょう。すばらしい知恵が働いていることが分かります。

ヤゴ、カイコ、そしてさなぎから、子どもたちは、命の尊さ・世話の大切さ・生きていくための知恵など多くのことを教わっています。